

●JICA国内研修ゲンバ訪問記 VOL.15 カンボジア義肢装具士育成研修@熊本編
OJAMA-SHIMASU 編集タチオカ
 たけだみり

その後、小峯先生に教室を案内してもらいながら義肢装具について説明してもらった。

義肢は、
 失った部分を、
 補填したり、
 その機能を代替
 させるための器具で、
 機能に障害のある
 部分の補助や、機能低下
 を防ぐための器具で、
 コルセットやサポーター
 などもこの仲間な
 ぞ。

義肢装具士は、
 患者さんの探型から
 器具の製作、適合、
 アフターケアまでを
 行う専門家をわけです。

「うー、なんかいいじゃない、
 いろいろな種類ですねえ」
 「人それぞれ
 症状も形状も
 違いますから、
 何をしたらいい
 かわかりません」
 「それは、
 患者さん一人一人の体に
 痛みなく装着できて、
 その人が必要としている
 動きを実現させる
 究極のオーダーメイドの世界。」

奥の部屋では、
 学生たちに混じって、
 サンバットさんも
 義肢製作の実習中だった。

そこはまさに
 モノづくりの現場！
 手作業で微妙な
 カーブを作ったり、
 女性を切断
 したり、
 水平器や定規で
 細かい測定を
 したり...

彼らが製作中の義肢は、
 実習に協力してくれている
 実際の患者さんのもので、
 型ができたならその患者さんと
 一緒に調整を重ねて
 作り上げていくのだそう。

「タチオカさん、
 これってすごく
 難しい職業
 ですよな〜」
 「はい、
 医学的な知識と、
 工学的な技術と、
 それに造詣のセンス
 みたいなのも必要
 ですよ〜」
 「あ、あと患者さんと
 コミュニケーション能力も...」

立場も言葉も違っても、
 同じ職業を志す者同士、
 学生たちと
 サンバットさんが
 一緒に実習する
 教室はなんとも
 いい雰囲気だった。

サンバットさんって
 現地では先生なのに
 全然そんな感じが
 しないですね

彼はカンボジアから
 一人でやってきて、
 1つもがんばって、
 すこいなあと思います

みんな日本語で気軽に
 話しかけてますよ
 話しかけてあげて
 もっと英語が
 話せればなあ〜

午後4時、
 後片付けをして
 この日の研修は終了。

最後にサンバットさんに
 なぜ義肢装具士になろうと
 思ったのかを聞いてみると、
 理由が...

私はもともと
 器具の製作のみに
 かがやる技術者
 だったんです

その時推薦されて
 義肢装具士の勉強を
 してみたら、ここの
 ほうが面白いし、
 お給料もよさそう
 だったからです

と、意外とあっさり
 したものでした

が、かえってそれが
 印象的だった

カンボジア人の
 義肢装具士たちには
 劇的な理由を持つ人は
 少なく、なんかみんな
 自然にそうやって、
 カンボジアです

それだけありふれた
 ことなんかな〜

逆に日本の学生は
 身内に障害者がいたり、
 パラリンピックが
 地元のニュースに
 心を動かされて、
 とか、こころも
 動かされて、
 取材終了！

これから寒くなりますが、
 体に気を付けて研修後半も
 頑張りましょう！

10月×日午前11時、
 熊本総合医療福祉学院
 に到着。

さっそく今回の研修員
 トウ・サンバットさんと
 話を聞いた。

彼が今日の主役
 トウ・サンバット君
 コンニチハ〜

カンボジア義肢装具士養成学校
 (CSPO)の講師助手の
 サンバットさんは、
 さらなる技術の向上と
 新しい技法の習得のため
 9月に来日。

彼が所属するCSPOは
 イギリスのNGO、
 カンボジアトラストが
 設立した義肢装具士の
 養成機関で、
 うちの学校の卒業生が
 ここで技術を習得した
 ことがきっかけで、この
 研修が始まりました

毎朝6時半に
 起床して
 お弁当を作り
 料理はいつも
 適当です

豚肉とラッキョウが
 炒めてあるのとかね
 なんかに独創的で
 面白いんだよ

彼の弁当
 あ、でも先生...
 それでいいかも
 普通においしいかも

昼間は日本人の
 学生と一緒に
 講義や実技の
 授業を受けたり、

小峯先生にマンツーマンで
 指導を受けたりして
 義肢装具士の勉強に励み、

カンボジアではまだ
 義肢装具士の支給も
 専門家の養成も
 ほとんど外国の支援に
 頼っている状態なので、
 マンツーマンの時は
 技術的なことだけでなく、
 保険制度や団体の設立などに
 ついて講義したりもします

彼の技術は学生より
 ずっと高いんだけど、
 使える技法や材料の
 種類が少ないので、
 いろいろな授業に
 参加してもらって
 うかなくと

あ、サンバットさん、
 日本語の授業は
 大丈夫なんですか？

この学校まで
 バス通学し、
 郊外にある
 バス通学し、
 市内から郊外に
 向かう朝のバス
 はガラガラで、
 反対側の
 通車ラッシュで
 バスに乗るの
 大変なんです

あ、サンバットさん、
 日本語の授業は
 大丈夫なんですか？

わかんない日本語が
 出てきたら、周りの
 学生さんに英語で
 教えてもらったりで
 何とかやってます

自立も
 保ちたい

夜は夜で
 日本語を勉強
 する日々だそう

はい、マジメなんです

す、いい
 マジメだ！
 マジメですね

お月見とか
 お祭りとか
 いろいろあります
 もり、こころも
 豊かになります

日本での一人暮らしは
 戸惑うことも多そうだけど、
 コレが
 暖房の使い方
 やがらおに
 震えとか...

でもまあ、
 そういう経験も
 ひくくため
 研修だしね

休日は市内で
 行われている
 日本語教室に
 行ったり、

毎週10人ほどの
 外国人たちと一緒に
 日本語の勉強してマス

着物も着せて
 もり、マジメ！

時には学校や地域の
 行事にも参加したり、

お祭りとか
 もり、こころも
 豊かになります

日本での一人暮らしは
 戸惑うことも多そうだけど、
 コレが
 暖房の使い方
 やがらおに
 震えとか...

でもまあ、
 そういう経験も
 ひくくため
 研修だしね

周囲の人にも支えられ、
 サンバットさんは
 充実した研修期間を
 過ごしている模様。

カンボジア人にとって
 熊本の冬は二たまる
 らしく、これからの時期
 ホールシックになる人も
 多いんですけど、
 サンバット君は
 大丈夫そう？
 大丈夫です
 寒いけど

サンバット風
**豚肉とラッキョウの
 甘酢炒め**

① フライパンに
 油をひいて
 豚肉を炒め、
 豚肉を切った肉を
 炒める

② ラッキョウは漬汁とその
 漬汁を適量に加え、
 全体が熱くなるまで
 炒める

③ ナムラーとコンニャク
 味をつけて完成！

白いコンニャク
 あっ、コンニャク

たけだみり(漫画家、4コマ、ショート、料理漫画を中心に活動中。著書に「セイシユンの食卓」異国のメシ「クッキングカンタン」キッチン「六」など。
<http://mapop.com/nejji/>)

月間の研修に参加している。義肢装具学科の学生たちと一緒にさまざまな義肢や装具の講義・実習を受けるほか、義肢装具の製作所やリハビリテーション施設などを視察したり、義肢装具学会に参加する機会もある。また、地元の祭りに参加したり、学生たちと季節のイベントを楽しむんだり、日本の文化に触れる機会もあるそう。他方、カンボジア人研修員の存在は、学生や地元の人々にとって、途上国の問題を考えたり国際的な視野を持つきっかけにもなっているようだ。

EDITOR'S MEMO
 今回紹介するのは、熊本県熊本市内の「熊本総合医療福祉学院」で行われている「カンボジア義肢装具士育成」研修。これは地方自治体が主体となって、その地域社会が持つ知識や経験を生かして途上国の発展に貢献する「草の根技術協力事業・地域提案型」の一つで、熊本県とJICA九州の連携で実施されている。研修の目的は、カンボジアの義肢装具士を日本に招き、カンボジアにおける義肢装具製作技術の向上と指導者の育成を図ることだ。

カンボジアでは、約20年に及ぶ激しい内戦に終止符を打ち、平和と復興の道を切り開いたバリと平協定の締結から今年で15周年を迎える。日本をはじめ国際社会の支援のもと、順調な復興・開発を進めてきたが、15年を経た現在も400万〜600万もの地雷・不発弾が残っているとされ、子どもを含む一般市民がその被害にあっている。そうした被害者やポリオなどの病気で障害を持つ人々に義肢装具を提供する義肢装具士の育成が求められているのだ。

熊本県では1997年から研修員を受け入れており、JICAとの連携が始まったのは3年前。今年からは、カンボジア義肢装具士養成学校の講師助手、トウ・サンバットさん(33)が、同学院の小峯敬文・義肢装具学科長の指導のもと、9月から約5カ